

I 総論

I 総論

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の背景と目的

(1) 計画策定の背景

本区では、平成4年3月に文京区生涯学習推進基本構想を策定しました。この構想では、文京区全域を「生涯学習のキャンパス」としてふさわしいものとなるように、生涯学習推進体制の整備を行うこと等について明らかにしました。そして、この構想に基づいて、生涯学習の推進に必要な施策の体系化を行うために、平成6年3月に「文京区生涯学習推進計画」（以下「推進計画」という。）を策定し、区民大学講座の開設等の事業を実施しました。

その後、平成12年3月には、推進計画の第1次改定を行い、民間教育機関との連携、区民大学院講座の開設などの事業を実施しました。

さらに、平成17年2月には、区の最上位の計画である「文京区基本構想」（「文の京」の明日を創る）の策定を受けて、推進計画の第2次改定を行うとともに、平成17年11月には、「文京アカデミー構想」を策定しました。この構想では、区民との協働・協治により、最先端の生涯学習と新たな文化・芸術を幅広く展開することを目指した、「学び」「教育・文化資産」「人づくり」の3つのネットワークを構築し、資格取得（キャリアアップ*）講座、「文の京ミュージアム ネットワーク*²」との連携、「文の京生涯学習司*³」（以下「生涯学習司」という。）をはじめとした区独自の資格制度の創設などの事業を実施しました。

このような中、本区では平成22年6月に、新たに「文京区基本構想」（歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」）（以下「基本構想」という。）を策定しました。そして、この「基本構想」の分野別の将来像を踏まえながら、これまでに進めてきた「文京区生涯学習推進基本構想」・「推進計画」・「文京アカデミー構想」の基本的な考え方を継承するとともに、さらに社会状況の変化等に対応した施策の展開を図り一本化して引き継ぐため、新たに「文京区アカデミー推進計画」（以下「アカデミー推進計画」という。）を策定することとしました。

「文の京」（ふみのみやこ）

これまで、文京区は、「文教の府」といわれ、「文化の香り高いまち」をめざして発展してきた。これに寄せる区民の誇りと愛着を大切にしたい。

そのうえで、区民と区が、時代の大きな変化に適応しつつ、可能性に富んだこの地を、新たな洗練と成熟の段階へとさらに発展させていく都市自治の姿を「文の京」と呼ぶ。

*¹キャリアアップ：より高い資格・能力を身につけ、経歴をたかめること。

*²文の京ミュージアム ネットワーク：区内の歴史・文化遺産に身近にふれる機会と場を、より多くの方々に提供するとともに、文化の発信と文化創造を推進するため、区内の美術館、博物館、庭園等により結成されたネットワーク。

*³文の京生涯学習司：生涯学習に関する一定の知識とスキルを習得し、生涯学習事業を企画・調整できる地域のリーダーとして文京区が認定した人。

(2) 計画策定の目的

区民や来訪者などが、学びや出会い、交流などの観点から区内で豊かな時間を過ごし、潤いのある生活を送ることをできるようにすることが、アカデミー推進計画の目的です。この目的を生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光、国際交流の各分野から実現していきます。

(3) 各分野の連携

これまで、生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光、国際交流という目的別に施策の展開を図ってきました。本計画を構成する5つの分野は、それぞれの分野に特徴がある一方で、目的や手法が重なり合い、相互に関係性を有する施策として位置付けることのできる面も持ち合わせています。

このような特徴を持つ5つの分野について、本計画では、単一的に各分野の事業を展開するだけでなく、有機的な連携により互いに補完し合い、高め合い、横断的な広い観点から事業の展開を図ることを目指しています。

2 計画の位置付け

(1) 性格

○ 本計画は、「基本構想」に掲げられた、

- 1 みんなが主役のまち
- 2 「文ふみの京みやこ」らしさのあふれるまち
- 3 だれもがいきいきと暮らせるまち

の基本理念に基づき、将来都市像である「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文ふみの京みやこ』」を、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流分野の側面から実現するための事業計画です。

○ 各部局で実施される関連事業等については、全庁的に調和を図っていきます。

○ 本計画は、スポーツ振興法に基づく本区のスポーツ振興基本計画に代わる計画とするものです。

(2) 計画の構成

本計画の構成は、「総論」と「各論」及び「体系別アカデミー推進事業」で構成します。

○ 「総論」は、基本構想の将来都市像である「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文ふみの京みやこ』」及び基本構想の「分野ごとの将来像～10年後にあるべき姿～」を具現化するための基本理念などを、概ね10年程度先を見据えた総合的な観点から掲げたものです。

- 「各論」は、「総論」に基づいて、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流の「5分野」の「基本的な方向」に沿って、分野別計画としてまとめたものです。今後、事業化を図る際には、「事業名」「概要」「担い手」を基に、事業計画を立てていくことになります。
- 「体系別アカデミー推進事業」は、平成22年度に各部局で実施又は実施を予定している「5分野」に関係のある事業を計画の体系別に整理したものです。

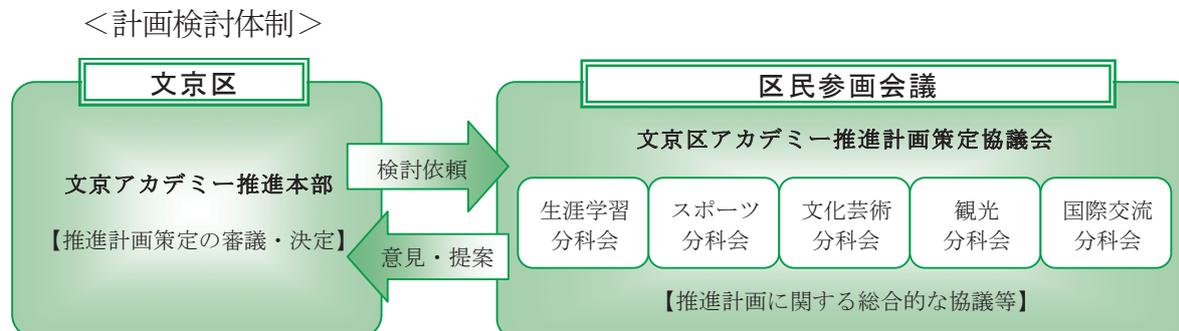
3 計画の期間

計画の期間は、平成23年度から27年度までの5年間とします。

4 計画の検討体制

(1) 計画検討体制

アカデミー推進計画の策定は、学識経験者や公募区民、団体関係者、区職員からなるアカデミー推進計画策定協議会において、推進計画全体に関わる内容について議論を行いながら策定を進めました。また、これらのメンバーは5つの分科会に所属し、分野別計画についての検討を行いました。



(2) 文京区アカデミー推進計画基礎調査の実施

区民の日ごろの学習や趣味・スポーツ・文化芸術活動・観光・国際交流に関する実態やニーズなどを把握するため、平成22年1月に20歳以上の区民2,000名を対象として「文京区アカデミー推進計画基礎調査」を実施し、『文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書（以下「調査報告書」という。）』をまとめました。

第2章 計画の考え方

1 計画の基本理念

アカデミー推進計画の基本理念

区内まるごとキャンパスに

— 「文の京」、豊かな学びと交流を楽しむまち —

本区は、18の大学をはじめ、数多くの教育施設、教育機関が集まる「文教の地」として、また、森鷗外、夏目漱石などの近代日本を代表する文人・文化人が居住し、彼らの活動や作品の舞台となった「文化の地」として知られています。

また、小石川後樂園や六義園などの庭園や由緒ある神社仏閣等、歴史を語る数多くの建造物も残るなかで、貴重な緑にも恵まれ、都心にありながら落ち着いたたたずまいを見せています。

このように、本区にはさまざまな地域が誇るべき恵まれた学習資源、文化資源、観光資源が存在します。

さらに、活動を推進する区立施設として、響きの森文京公会堂（文京シビックホール）やアカデミー文京、文京ふるさと歴史館、8館3室の区立図書館などの文化・生涯学習施設、スポーツセンターや総合体育館などのスポーツ施設があります。人材の観点からも区内には、大学、事業者、NPO（非営利活動団体）などで活躍し、あるいは、豊富な経験と卓越した技術・知識を持った区民が多く存在します。

このような本区の特性を背景に、「いつでも・どこでも・だれでも」活動したいときに活動し、学びたいときに学び、楽しむことができ、さらに、その過程で生まれるさまざまな人々との出会いや交流を通して、触発し合いながら、「文の京」らしさあふれる文京区で豊かな時間が過ごせるようにすることを目指し、アカデミー推進計画の基本理念を『区内まるごとキャンパスに—「文の京」、豊かな学びと交流を楽しむまち—』と決めました。

2 計画の3つの基本目標

基本理念を実現するために、3つの基本目標を次のように掲げます。

アカデミー推進計画の基本目標

目標1 豊かな時間を過ごせる環境づくり

区内に在住、在勤、在学する人のみならず、観光や仕事などで訪れる一人ひとりが、文京区というキャンパスで、さまざまなことを「みて」「きいて」「体験して」豊かな時間を過ごすことのできる環境づくりに努めていきます。

目標2 交流を通じた新たなコミュニティの創造

サークルなどで活動する人々が「出会う」こと、世代や国籍などを超え同じ事柄に関心を持つもの同士が「集まる」ことにより、新しい人とのつながり、多様な交流を通じた新たなコミュニティの創造を目指します。

目標3 多彩な連携によるネットワークづくり

区は、区民・地域活動団体・NPO（非営利活動団体）・大学・事業者など「新たな公共*⁴」の担い手との連携・協働を進め、区民や来訪者が、本区でさまざまな経験を重ね興味や関心を深めたり、充実した時間を過ごせたりすることができるネットワークづくりを進めます。

*⁴新たな公共：これまで地方自治体が提供主体と認識されてきた公共的サービスについて、地方自治体だけでなく、区民、地域活動団体、NPO（非営利活動団体）、事業者など地域のさまざまな主体が担うことをいう。

3 計画の5つの行動

3つの基本目標を達成するため、「つくる」「伝える」「つなぐ」「活かす」「協働する」の5つの行動を重視して、施策を展開していきます。

アカデミー推進計画の5つの行動

行動1 区の魅力を体感できる多様な機会を「つくる」

生涯を通して主体的に活動し、また、関心のある事柄について深く究めることができるよう、各種団体、施設、文化財、風景等の多様な資源を活用し、区民や来訪者が区内で充実した時間を過ごせる機会をつくります。

行動2 さまざまな媒体を活用し、情報を分かりやすく「伝える」

あらゆる立場の人が、活動する際にさまざまな媒体を活用し、情報を取得することができるよう、情報を分かりやすく提供する工夫をします。また、幅広く相談に応じる体制を整え、情報を必要としている人へ確実に伝えます。

行動3 個人や団体の主体的な活動を「つなぐ」

個人や団体が活動を十分に楽しみ、より実践的な活動へ発展させ、自らが活動の運営を担っていくことができるよう、交流や連携の仕組みを整備し、個人や団体の活動をつないでいきます。

行動4 豊富な知識や経験をもつ人材を「活かす」

現在、学習や稽古、練習を重ねている方や、これまで豊富な経験を積んでいる方など、地域には多種多様な「力」を有する方々があります。その成果を地域へ還元できるように、そうした方々の「力」を活かします。

行動5 計画を推進する多彩な主体と「協働する」

区民が主役の本計画において、個人や団体がさまざまな活動を主体的に担っているよう支援します。そして、計画の推進を区に関わる全ての人で進めていくため、区民や大学、事業者や各種団体などと連携・協働していきます。

アカデミー推進計画 基本理念・3つの基本目標・5つの行動

基本理念

区内まるごとキャンパスに
 — 「文の京」、豊かな学びと交流を楽しむまち —

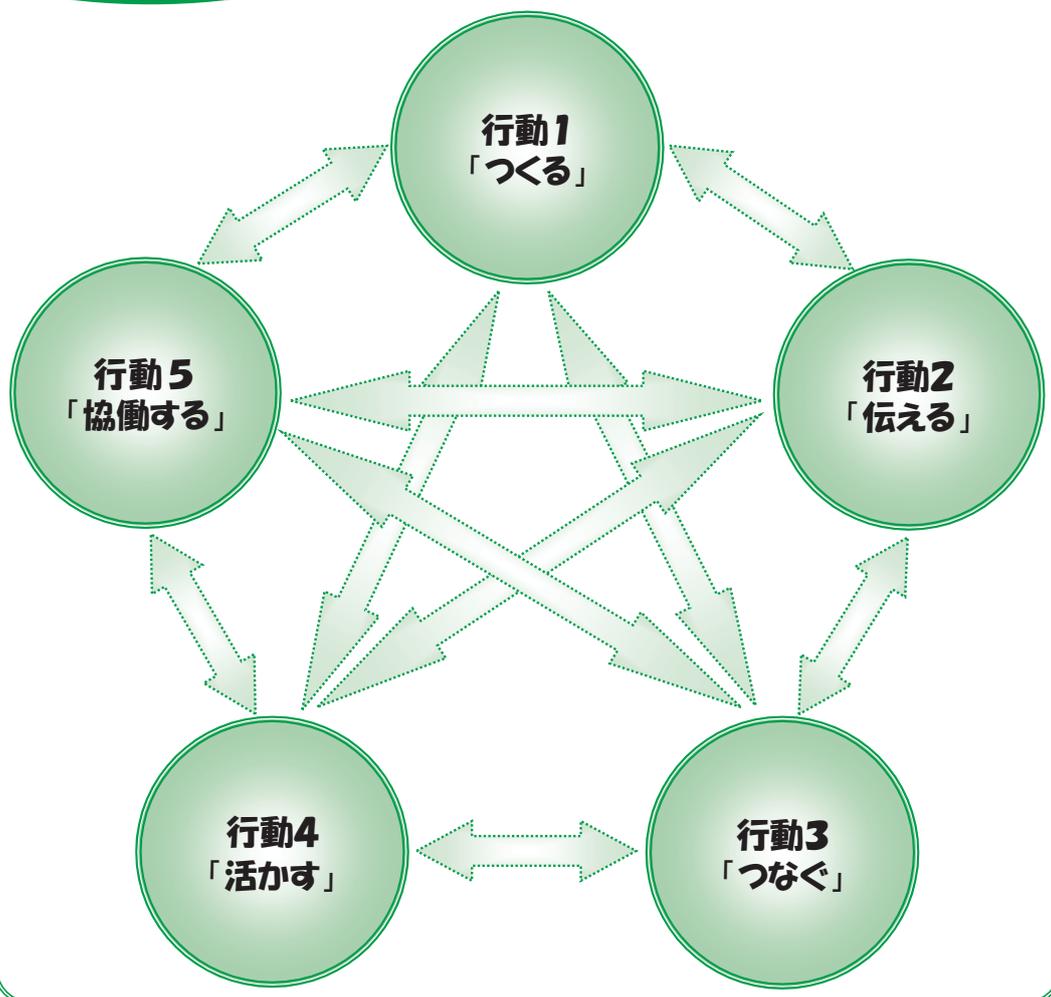
3つの基本目標

目標1 豊かな時間を過ごせる環境づくり

目標2 交流を通じた新たなコミュニティの創造

目標3 多彩な連携によるネットワークづくり

5つの行動



4 計画の体系

アカデミー推進計画を進めていくために、5分野からなる以下の計画体系によって実施していきます。

分野	分野別の目標	基本的な方向
1 生涯学習	1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実
		(2) 学習や活動ができる環境の提供
		(3) だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり
		(4) さまざまな学習活動を支援する区立図書館づくり
	2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実	(1) 学習情報の収集・整理
		(2) 分かりやすい情報提供
		(3) 相談体制の整備・充実
		(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり
	3 区民・団体の主体的な活動の支援	(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり
(2) 活動成果披露の場の充実		
(3) 人材育成の推進		
(4) 人材活用の推進		

分野	分野別の目標	基本的な方向
2 スポーツ	1 スポーツのきっかけづくり	(1) スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備
		(2) スポーツへ参加する機会の提供
	2 スポーツを楽しむ環境づくり	(1) スポーツ施設の整備・充実
		(2) 既存施設等の利活用
		(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供
		(4) スポーツを通じた地域交流の活性化
	3 スポーツ観戦の魅力向上	(1) プロスポーツ等団体との連携・協力
		(2) スポーツ観戦機会の拡充
	4 スポーツ指導者の育成	(1) スポーツ指導者等の育成と確保
		(2) スポーツ指導者の技術等の強化

分野	分野別の目標	基本的な方向
3 文化芸術	1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実	(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実
		(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実
		(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実
		(4) だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり
	2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実	(1) 文化芸術関連の情報収集・整理
		(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信
		(3) 相談体制の整備・充実
	3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり	(1) “楽しむ人”づくりの推進
		(2) “活動する人・団体”への支援
		(3) “伝える人”の育成と発掘の推進
		(4) 人材活用の推進
		(5) 文化的な資源の発掘と保存の推進

分野	分野別の目標	基本的な方向
4 観光	1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出	(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ
		(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり
		(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり
		(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築
	2 まちあるきや交流のための環境づくり	(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進
		(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり
		(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり
		(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進
		(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）
		(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり
	3 観光まちづくりのための情報発信	(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化
		(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進
(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR		
(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進		
4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり	(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成	
	(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用	
	(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成	
	(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり	

分野	分野別の目標	基本的な方向
5 国際交流	1 国際理解を進める機会づくり	(1) 国際理解の推進
		(2) 多様な文化を学べる機会の充実
	2 国際交流を進める機会づくり	(1) 交流の機会の拡充
		(2) 交流を支える人材の育成及び支援
		(3) 交流拠点の充実
		(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化
	3 外国人が快適に暮らせる環境づくり	(1) 外国人の暮らしの支援
		(2) 地域活動への参加促進

第3章 計画の進め方

1 区民等との連携

アカデミー推進計画を着実に推進していくためには、区民、地域活動団体、NPO（非営利活動団体）、大学、事業者などが、持っている能力や特性を相互に活かしながら、さまざまな活動に主体的に取り組むことにより、人と人との絆を強め、自らが社会づくりの「新たな公共」の担い手であるという意識を広めることが必要になります。

新たな公共では、これまで行政が主として提供してきた公共サービスを、今後は行政だけでなく、地域活動団体をはじめNPO（非営利活動団体）や事業者など、さまざまな主体が対等な立場で協働し、担っていく仕組みを整えていくことが必要になります。そのことが、地域社会の中で、人と人とのつながりを生み、相互のネットワークを広げさらに活動を高めることになります。

このような、区民、地域活動団体、NPO（非営利活動団体）、大学、事業者など新たな公共の担い手と区が互いの役割分担を認識して力を合わせ、「文の京」自治基本条例で自治の理念として掲げている「協働・協治」の考えに基づき、連携を進めていきます。

2 計画の推進体制

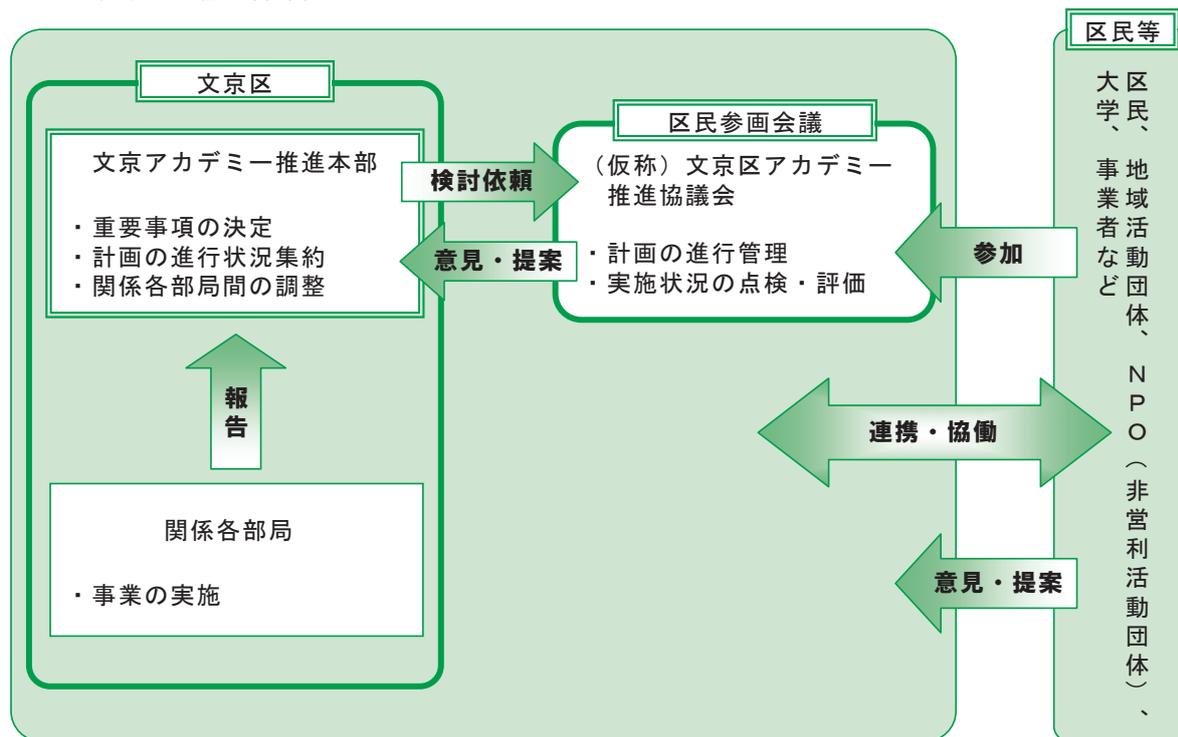
アカデミー推進計画は、区と区民等が共に「連携・協働」に基づき推進をするためにも、その根幹にある体制の整備と充実が必要です。

これまで、区民参画による組織として、本区では「文京区アカデミー推進計画策定協議会」を設置し、「文京アカデミー構想」の推進及び本計画の策定を行ってきました。今後は、アカデミー推進部で所管する3つの専門会議体を再編・統合し、新たに設ける、学識経験者・公募区民・団体関係者等で構成する「（仮称）文京区アカデミー推進協議会」で、本計画の進行状況の管理及び実施状況の点検・評価を行い、計画の実効性を高めていきます。

また、本区には、各種事業に取り組む区内組織として「文京アカデミー推進本部」があります。ここでは、アカデミー推進部を中心として関連する各部局との連携・協力を充実させ、本計画に定めた各種活動の活性化のための施策・事業を総合的に推進していきます。さらに、計画の進捗状況を集約し、調整をするとともに、「（仮称）文京区アカデミー推進協議会」などからの意見や提案を踏まえて、計画の推進に必要な事項の決定を行います。

このような体制の整備を行い、多方面からの幅広い意見・要望の把握、関係機関との連絡調整等をもとに、従来にも増して連携・協働を進め本計画の着実な推進に努めていきます。

<計画の推進体制>



3 計画の進行管理

アカデミー推進計画を総合的かつ効果的に実施していくためには、事業の点検・評価を行い、見直しをすることでさらなる展開に反映させていくことが求められます。そのため、「Plan（計画）⇒Do（実施）⇒Check（点検・評価）⇒Action（見直し）」のPDCAサイクルに基づく進行管理を、「(仮称)文京区アカデミー推進協議会」で毎年行い、計画全体の実効性を確保していきます。

